



けやきっ子

東根市立東根小学校
学校だより

No. 2

令和2年5月22日発行

リスクをチャンスに変える発想を

校長 長瀬 広幸

学校再開から一週間が経ちました。以前とまったく同じとは言えませんが、少しずつ学校の日常を取り戻していることを実感しています。子供たちの声や姿を大げやきも待ち望んでいたのでしょう。子供たちが帰ってきて、大げやきの緑がよりいっそう色濃くあざやかさを増しました。

私たちは今、当たり前前の方がこんなにも大切なことだったのかということに改めて思い知らされています。確認や分からないことがあったら机を寄せて話し合う子どもの姿や、給食を談笑しながら楽しく食べるという当たり前前を、今は見ることはできません。子供たちに、お互いの距離を保つことが自他のいのちを守ることを指導しているからです。悲しいことですが、新型コロナウイルスの存在する社会で感染リスクを低減するために必要なことなのです。

3年生のある女の子は、「授業中、みんなと相談できないからつまらない。自分の考えが合っているか確かめられず心配になる」と戸惑っています。対話的で協働的な学びの楽しさを知っている子供たちにとっては当然のことです。

しかし、このような状況を悲観していても、前に進むことはできません。大切なのは、この状況を踏まえながら、東根小の目標である「心も体もたくましい凜とした子どもたち」を育てていくことです。当たり前前ができなかったら、新しい形を創り、追い求める理想に近づけていく創意工夫が必要なのです。

保護者の皆さんが心配されていることの一つに、学習の遅れをどう取り戻すのかとという課題があると思います。分散登校期間中も可能な限り進捗を進めるよう取り組みましたが、5月の末までの状況でも半分以下にとどまりそうです。しかし、行事の削減や時間配分の変更等、教育課程の見直しにより、7月末まで授業を進めればおおよそ取り戻せる見込みも立っています。時間配分の変更の中には、復習の時間を家庭学習に組み入れて想定していることもあります。学校生活と家庭生活のトータルでの学びが求められます。これは、リスクですが、教育の究極の目標は、自分で目標を立て、その達成のための計画を練り、自己評価しながら学び続ける自己教育力を身に付けさせることです。当たり前前が当たり前でなくなった今だからこそ、その力を身に付けさせるチャンスであるという発想に立ちたいと思います。

このような困難な時に入学した1年生、卒業期を迎えた6年生、そして、東根小の子供たちみんなのためにも、知恵をしぼりながら、よりよい学校生活の創造を追求していきます。



「新型コロナウイルスからみんなを守る県民運動」TVCM出演